

# 今後推進すべき科学技術の方向性

- 予期せぬ脅威の出現にも対応できる「柔軟で粘り強い体制の社会的整備」を科学技術開発から実現するのが望ましいのではないか。
  - 現在の課題を解決するための短期集中型の研究投資
  - 脅威の同定と社会的影響を検討するための学際領域をも含めた多領域を巻き込んだ調査研究の組織的投資
  - 研究の社会への実装と積極的な評価活動からのフィードバック

# 内閣官房の取り組み

(別紙参照)

Copyright (C) 2004-2005 National Institute of Information and  
Communications Technology (NICT), Japan

Contact: [hohno-sec@ohnolab.org](mailto:hohno-sec@ohnolab.org)